

河北新報普及センターと尚絅学院大がつくる名取のメディア

# ハナモモ通信

2019年 6月



ハナモモちゃん

【発行】河北新報普及センター  
 【協力】尚絅学院大 河北仙阪  
 【エリア】名取市内  
 【部数】11,600部  
 【電話】022(266)2991

## きらり☆なとりびと お浜降り〜星帰りは名取をつないだ〜

熊野那智神社 井上幸太郎宮司

熊野那智神社(高館吉田)のご神体を神輿で運び、かつて引き上げられた閑上まで巡る神事「お浜降り」が21年ぶりに復活し、5月26日に開催されました。神事復活の中心となった熊野那智神社の井上幸太郎宮司(41)に準備と実施後の思



いについて話を聞きました。(6月17日、聞き手は尚絅学院大2年、星野裕太)井上宮司は2年前から準備を開始。閑上からご神体が引き上げられて1300年の節目である今年、ご神体を里帰りさせる目標を立てました。

過去の資料を閲覧しようとして市に問い合わせたところ、復興整備を進めてきた閑上に縁の深い行事を一緒に盛り上げたいと協力の申し出があったそうです。神事復活の話聞きつけて「参加したい」と手を挙げた市民もいました。東日本大震災や、神事が途絶えてから年月が過ぎたこともあって、地域コミュニティや住民の置かれた状況は変わってきたそうです。だからこそ、「ご神体を運ぶ目標に向かい、準備に参加した誰もがハツラツと頑張っていた」ことを喜び、「人間は辛いことも乗り越えていくもの。神事の復活が住民同士、心を一つに通わせることに貢献できたのなら、大変うれしい」と話しました。



◆お知らせ◆

熊野那智神社では毎月第3日曜日、小物や食品販売、ワークショップなどの出店が境内に並ぶ「那智手作りマルシェ」を開催しています。

次回7月21日(日)は11時〜16時、人気バンド「カラーボトル」のメンバー竹森マサユキさんのライブもあります。ぜひ会場に足を運んでください。



尚絅の森の子ヤギたち

ぜひ会いに来て!



尚絅学院大(ゆりが丘4丁目)で飼っているヤギのアサヒが4月、3匹の子ヤギを生みました。ヤギの一家は姉ヤギのトモを加えて計5匹に。子ヤギはアイドル級のかわいらしさで学生や付属幼稚園の子どもたちの人気を集めています。3匹は親のアサヒから草の食べ方を教わっている最中で、徐々に草を食べられるようになってきました。それでもまだまだアサヒのおっぱいに吸い付いてミルクを飲む姿も見られます。飼育係の学生が「厄介なほどわんぱく」と言うほど活発に動き回り、山の傾斜を走ったり、しゃがんで作業している学生の背中によじ登ったりして遊ぶ姿が見られました。ヤギの世話は、学生団体「ヤギ会」の学生が中心と



なって取り組んでいます。メンバーは授業のない時間を利用して交代で餌やりや掃除、体重測定などの作業を行っています。アサヒの搾乳で使う台座も自作。担当する学生の一人は「ヤギたちとの触れ合いは学生生活の中で癒しになっていく。成長を見るのはとても楽しい」と話しました。ヤギは大学構内のグラウンド横にある放牧スペースで飼育されており、係の学生に声を掛ければ見ることが出来ます。子ヤギの成長の様子やヤギ会の活動はツイッター(@TomooAsahi618)で確認することが出来ます。

3匹のうち何匹かは、7月中に他の大学に引越しをする予定です。ぜひ会いに来てください。(村田陽香)



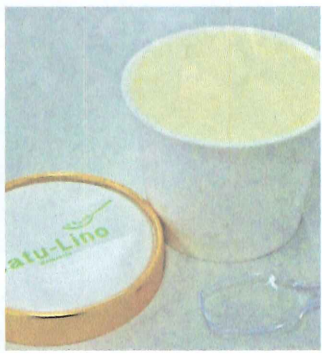
# 新商品は『ずんだ味アイス』

## 宮城農業高の生徒らが新商品開発

宮城農業高（高館吉田）と尚綱学院大（ゆりが丘4丁目）、ジェラート専門店「ナチュリノ」（飯野坂）は、新味「もう密・ずんだチーズケーキ味」を開発し、5月30日、市役所で商品発表会を行いました。原料には東日本大震災の津波で生き残った「奇跡の牛」と呼ばれる宮城農業高の牛の子孫の生乳が使用されています。



発表会で農業高の生徒が「開発段階ではミルクとずんだの食感のバランスを取るのが難しかった」と説明しました。宮城県内の流通や卸売りなどの関係者が出席し、試食後は「甘すぎず、ずんだが初めての人でも食べやすい」「高級アイスとして販売できる」といった感想が上がりました。



宮城農業高で牛を飼育する「牛部」の川井つむぎさんは「牛たちを病気やストレスから守り、愛情を持って育てていきたい」と良質な牛乳出荷に意欲を示していました。尚綱学院大1年、板橋美羽さんは「宮農在学時から開発に携わっている。企画がようやく実現して感動しています」と感想を述べました。「もう密」は宮城県内のスーパーなどで350円（税抜き）で販売されます。（星野裕太）



ハナモモ記者  
**文化財巡り**

# 旧中沢家住宅

## ノスタルジックなひと時

名取市内の遺跡・史跡など文化財を巡るコーナー「名取史跡巡り」ハナモモ記者が「旅」を開始します。ハナモモ記者が気になった遺跡や史跡などの文化財を巡って紹介します。読者の皆様のリクエストにもお応えします。知る人ぞ知る名所、旧跡、いわれのある名品などを紹介させていただきます。連絡先は河北新報普及センターです。記念すべき第1回目は旧中沢家住宅を紹介します。



「旧中沢家住宅」は江戸時代初めごろに建てられた国の重要文化財です。詳しい由緒については明らかになっていませんが、中沢家という旧家が移り住んだと伝えられ、数回の増改築を繰り返しながら、1973年まで住宅として利用されていました。74年の重要文化財指定以降は名取市が管理しています。

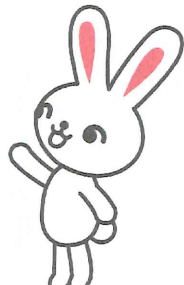


住宅はかやぶき屋根で、四方向に傾斜する屋根面をもつ寄棟造（よせむねづくり）、石の上に直接柱を載せた石場建の工法が用いられています。田の字型に4つの部屋が並び、土間と座敷の間には仕切りはありません。土間に3本の独立柱が立っていて、「名取型」と呼ばれる特徴的な農家建築です。住宅内には自然光が差し込み、ほんのりとした明るさには包まれます。取材当日はあいにくの雨で暗かったのですが、住宅の雰囲気により引き立てられているようでした。土間にはかつて農作業で使われていた農具が展示され、当時の暮らしの一端を垣間見ることが出来ます。

囲炉裏の火や庭の手入れなどを行う人は「住宅周辺を散歩し、休憩に訪れる人が多くいらつしやいます。昔の農具などを見て、昔話で盛り上がることもありますよ」と話していました。

開館時間は4月～11月の毎週火・木・土・日曜日の午前10時～午後3時半。7月14日、9月8日は「名取昔ばなし語りの会」が話会を開催する予定です。（後藤・島田・菊地）

羽生結弦写真真集  
**発売中**



羽生結弦写真真集2018～2019（スポーツニッポン）を発売中です。

- 2連覇を果たした平昌五輪後の仙台パレード
- 国民栄誉賞授与式
- クリケットクラブ練習公開
- オータムクラシック
- GPシリーズ
- さいたま世界選手権
- モニユメントデザイン発表会など羽生結弦選手の2018～19シーズンを振り返る写真集A4判112ページ定価2430円（税込）

◎ご購入希望の方はお電話でお申込み下さい。

河北新報普及センター  
電話(266)2991

